

第13回雲南懇話会資料

「インド・パキスタンの山々」—2008年～2009年の記録—

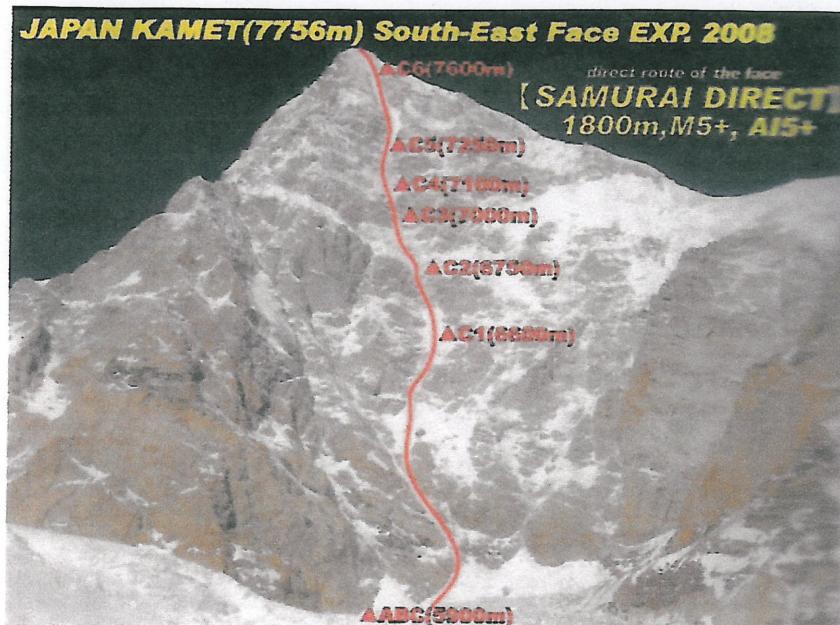
平出 和也

株ICI 石井スポーツ、登山家、東海大学山岳部OB

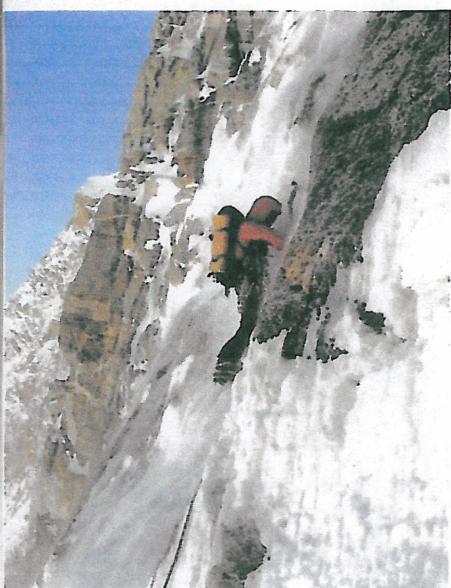
2008年9～10月、インド カメット峰(7756m) 南東壁初登攀 —SAMURAI DIRECT—

カメットはインドと中国チベット自治区との国境に程近い場所にあり、近年まで外国人の入域が難しかった。特に今回登った南東壁は、海外の登山家からも注目を浴びていた課題でもある。数年前にもこの課題を目指し外国人が入っているが、地形的に気象変化が大きく、一晩で1mを越す雪が突然降ったりして何も手を付けることなく敗退している。今回その課題を目指した。パートナーは谷口 けい。

壁に取り付いて7日目、会心のクライミングの末の成功であった。



カメット南東壁全容



第一核心部、チリ雪崩の中を登る平出

第17回ピオレドール（黄金のピッケル賞）授賞。

2009年4月、ボナッティーやダグスコット、ペーター・ハーベラー等の著名なクライマーを審査員に迎え、2008年の優れた登山に対する表彰（授賞）式が、アルピニズム発祥の地 シャモニにて行われた。私達の登山（2008年秋のインド・カメット峰(7756m)南東壁の登攀）は、他隊と比べ技術的な困難さで劣ると自覚しているが、オリジナリティー精神と山頂に突き上げるきれいなラインが評価され、第17回ピオレドール（黄金のピッケル賞）に選ばれた。

2009年6月、ガッシャーブルムⅠ峰(8068m)登頂。

《登山の前のコメント》

フィンランド人のクライマー・ベイカーグスタフソンと共に、パキスタンにある8千m峰のガッシャーブルムⅠ峰を目指します。現在、8000m峰を13座登頂しているベイカーにとって今回、14座完登への大きな挑戦になります。メンバーはサポート兼カメラマンの私の2人だけのチームです。シンプルかつスピードイーな登山を目指します。

期間:2009年6月12日~8月14日 場所:パキスタン ガッシャーブルムⅠ(8068m)

隊員:ベイカーグスタフソン(フィンランド人)、平出 和也(サポート兼カメラマン)

2009年11月、銳峰ガウリシャンカール(7134m)未踏の南東壁からの挑戦。

この山はネパールとチベット自治区の国境上に位置し、1979年に西面から米国隊により初登頂された。しかしチベット側の北東面はいまだ未知の世界を保ったまま。私達が望む、未知への挑戦・困難への挑戦が実践できることに感謝し、持っている経験や体力の全てを駆使しオリジナリティーのある挑戦をしてきたいと思っている。

《登山を終えて》

今年最大の挑戦が終了しました!

知ってはいたけどチベットで登山をするのはいろんな意味で忍耐力が必要でした。

まず、陸路にてチベットに入りベースキャンプへと着々と近づいていましたが、最後のチェックポストで突然、軍の許可証が無いからダメ!!! と言われ、待つこと一週間…。

という感じでスムーズに行かないことが山ほどあるのが遠征ですが、私達が頑張ってもなんにも解決できないのがこの場所。

ともかく無事登山は終了しました。登頂まではあと150mと迫りましたが残念!

この山はどこから登っても大変です。

《平出さん自身の「ホームページ」及び『「山岳」2009年、Vol.104、日本山岳会発行』

より抜粋して転載しました。》(編集;前田栄三)